

小学校家庭教育学級・MCR 学級合同閉級式及び家庭教育講演会

1 目的

- ・小学校家庭教育学級生及び MCR 学級合同閉級式及び家庭教育講演会を開催することで、家庭教育学級生が家庭教育の重要性について再認識するとともに、今年度の活動を振り返り、次年度の学習意欲を高める。

2 日程・会場・参加人数

2月18日(水)10:00~12:00 松戸市民劇場ホール
当日参加者 64名 一時預かり利用者 3名



3 内容

(1)開式

主催者挨拶 松戸市教育委員会 波田 寿一 教育長

波田教育長の挨拶は、一年間の各学校の家庭教育学級運営へのお礼と労いと共に、次年度に向けての思いを込めたお話でした。また、藤倉氏の講演について、ご紹介もいただきました。

(2)講演

演題 「身体が動くと心も動く 家庭でできるドラマチックラーニング」

講師 教育演劇学博士 カンジヤマ・マイム主宰

早稲田大学国際教養学部講師 藤倉 健雄 氏

(3)質疑応答

(4)閉会

4 概要



ロボットの pantomime で登場。巧みな話術とパフォーマンスに参加者は、知らず知らずのうちに引き込まれていきました。教育演劇学博士として、大学生に行う講義では、役者として演じる上で、セリフを棒読みするだけではなく、セリフの後ろに隠された本当の意図は何かを常に考え、その思いを込めることの大切さを伝えているという、お話がありました。何気なく発する言葉には、どんな思いが隠されているのか、日常の子育ての中でも、どんな表情で、どんな口調で子どもに話しかけているか。自分の子育てをふり返ってみると反省させられる場面が多々あり、気をつけていくようになったとのことでした。また、心の知能指数(EQ)についても触れ、子どもが、学力だけではなく、人として社会でも認められるようになっていくためには、EQ を高めていくことが大切で、自分の心の状態を認知し、情動がコントロールできるように、日ごろの生活の中で親がその姿を見せていく必要があることを話されていました。最後に、病気の子どもをかかえたバイオリン弾きの大道芸人のお話を pantomime で演じられました。まったくセリフがなくても、ストーリーや登場人物の感情すべてが伝わるという、プロの演技に魅了されました。



5 参加者の主な感想

- ・親の感情や理想で、子どものやりたいことや成功体験を遮ってしまっていると思うので、子どもを一人の人間として見て接していきたいと思います。
- ・自分の気持ちを言語化して子どもに伝えてみたいと思います。子どもの言葉の本当の意味をくみ取りながら接することができたらいいなと思いました。
- ・自分のエゴが大きくなっていることに改めて気づきました。心の歯磨きをして、子どもにもっと寄り添えるようにがんばろうと思いました。